

昭和58年度茨城県芸術祭参加

茨城オペラ第9回公演

# 魔笛

■モーツァルト  
W·A·MOZART

茨城オペラ研究会

昭和58年度茨城県芸術祭参加

## 茨城オペラ第9回公演

# 魔笛

1983年10月23日 3:30開演

茨城県民文化センター・大ホール

主催／茨城県教育委員会，茨城県，茨城文化団体連合，茨城県文化  
福祉事業団，茨城県教育財団，茨城新聞社，茨城オペラ研究会  
後援／茨城県市長会，茨城県町村会，茨城県商工経済会，茨城県市  
町村教育委員会連合会，茨城放送，日本放送協会水戸放送局，  
朝日・毎日・読売・サンケイ・東京各新聞水戸支局，常陽新  
聞社，新しいばらきタイムス社

## キャスト

ザラストロ	堀部一寿
タミーノ	郡司忠良
パミーナ	手塚久美子
夜の女王	横瀬公子
パパゲーノ	佐藤宏之
パパゲーナ	青山陽子
待女 1	菊池典子
待女 2	篠田喜代美
待女 3	生天目美知子
弁者	青木孝雄
僧侶 1	小河原正三
僧侶 2	菊池好男
モノスタトス	片野克一
童子 1	菊池みどり
童子 2	疋田美奈子
童子 3	綿引久美子
武士 1	皆川純一
武士 2	川又浄範
パパゲーノ	野地一平
の子供	尾崎幸子
〃	古市ひとみ
〃	菊池千波
〃	片野恵理子
〃	青木美和子
〃	小河原隆次
〃	湯浅真規子

## スタッフ

指揮	茂木一衛
演出	松本重孝
コルペティウア	下瀬のり吉
副指揮	菅野弘久
〃	下河辺伊久夫
合唱指揮	田崎雅之
舞台監督	伊集院正則
照明	服部基
装置	菊池弘道
美術・広報	鹿志村豊
演出助手	高木優子
稽古ピアノ	天城協子
〃	後藤明子
〃	河崎明彦
美装・着付	白川とき

(ひかり美容室)

衣裳 …… 山形県人オペラ

管弦楽 …… 東京アーティストズ合奏団

合唱 …… 茨城大学混声合唱団

製作 …… 白川昭平

# キャスト

## ザラストロ



堀部 一 寿

昭和57年、尚美高等音楽学院教育科卒。  
現在同研究科在学中、学校オペラにて「フィガロの結婚」のフィガロ、他に出演。また、こんにやく座のオペラ教室、長門美保歌劇団合唱部に所属する。西義一氏に師事。

## タミーノ



郡 司 忠 良

武蔵野音楽大学卒。藤原歌劇団合唱部員として活躍後、二期会会員として移籍。78年ミラノ音楽院に留学、ピッコロ・スカラ等数多くのコンサート、オペラに出演、国際声楽コンクール入賞。82年帰国。武蔵野音大講師。

## パミーナ



手 塚 久 美 子

洗足学園大学音楽学部声楽科卒、尚美学園ディプロマコース卒。  
大里洋子、西義一、鈴木義弘氏に師事。  
現在、茨城音楽専門学校講師。

## 夜の女王



横 瀬 公 子

水海道二高卒業。尚美高等音楽学院研究科卒業。同学院卒業演奏会等に出演。水戸市芸術祭に出演。今年度県芸術祭県民コンサートにも出演を予定している。現在二期会研究生29期に在籍。

## パパゲーノ



佐 藤 宏 之

武蔵野音大卒業。'78~80バルマ音楽院(イタリア)に留学。魔笛は昨年の第一生命ホール公演に続き2度目。今年は東京、千葉、土浦でフォーレ作曲「レクイエム」に独唱者として出演。宗教音楽へも意欲的。現在は土浦短大講師。

## パパゲーナ



青 山 陽 子

武蔵野音楽大学卒業、同大学院修士課程終了。在学中、オペラ「ルサルカ」、「ユーゴスラビアノタベ」大学院終了演奏会等に出演。  
岡崎史恵子、Z・フィリポヴィッチ両氏に師事。土浦市在住。

## 待 女 1



菊 池 典 子

武蔵野音大声乐科卒。末松峯子、鈴木義弘、日比啓子氏に師事。'80年~'81年、西ベルリンに留学。帰国リサイタルを開く。  
昨年9月、東京にて、同じこのモチーフト作「魔笛」の待女第1でデビュー。

## 待 女 2



篠 田 喜 代 美

水戸三高音楽科、国立音楽大学声乐科卒。  
鈴木てい子、内田るり子の両氏に師事。57年、58年度、茨城県芸術祭「県民コンサート」、58年度、水戸市芸術祭に出演。現在、七会中学校教諭。

## 待 女 3



生 天 目 美 知 子

水戸三高音楽科、武蔵野音楽大学声乐科卒。  
青木傑子、河村昭世、河野敦子の諸氏に師事、58年度水戸市芸術祭、茨城県芸術祭「県民コンサート」に出演。

弁 者

青 木 孝 雄

茨城大学卒。茨城オペラ創設以来の主要メンバーとして活躍。「蝶々夫人」のシャープレス、「夕鶴」の運ず、「ヘンゼルとグレーテル」のペーター等を持役としている。



クナーベ 2

足 田 美 奈 子

昭和56年、県立日立第二高等学校卒業。昭和58年、茨城音楽専門学校卒業。現在、常陸太田市にてピアノ講師。オペラは初めての経験ですが、茨城オペラ最年少の若さでがんばります。



僧 侶 1

小 河 原 正 三

立教大学卒。在学中グリークラブで活躍。茨城オペラ「炭焼姫」「小さな煙突そうじ屋さん」等に出演。其の後は裏方として茨城オペラ公演を支えて来た。



クナーベ 3

綿 引 久 美 子

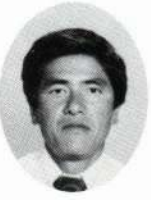
洗足学園大卒、ウィリアム・ウー氏に師事。第7回「マダム・バタフライ」、第8回「あまじやくとうりこひめ」に出演。



僧 侶 2

菊 池 好 男

茨城大卒。オペラ初参加、「見る」側から「やる」側へ。一曲に全力投球中。現在、那珂一中で体育科教師。



武 士 1

皆 川 純 一

茨城オペラとは第1回公演からのつきあい。学生時代からの合唱歴を生かし、「コール水戸」の指揮を'75-'81まで務め、'82年から東海村女声合唱団の指揮者として、音楽の底辺拡大に頑張っている。



モノスタトス

片 野 克 一

第4回公演の夕鶴の与ひょう役があたり役で、その後はもっぱら脇役に徹している演技派。第1回公演より出演して、今年で9年目。今回の役について『憎めない悪者を演ずるのは難しい』とのこと、どの様な悪者が出るか、乞う御期待。



武 士 2

川 又 浄 範

武蔵野音楽大学声楽科卒業。石黒達男、藤沼昭彦両氏に師事。第7回公演「マダム・バタフライ」では神官で活躍する。現在勝田一中教諭。勝田市民吹奏楽団指揮者。



クナーベ 1

菊 池 み どり

茨城大学教育学部音楽科在学中。初めてのオペラ出演に、若さで体当り。



パパゲーノの子供

野 地 一 平

僕は1才と6ヶ月、史上最年少のスターだよ、よく見てね。





尾崎 幸子

大沼小2年  
お母さんは美声で歌がうまいです。お母さんの夢のステージを私が替りにかなえて上げます。



青木 美和子

新莊小  
茨城オペラの蝶々夫人でも、お父さんと一緒に出ました。今度が二度目の共演です。男役ばかりでつままない、美人なんだから女役がやりたーい。



古市 ひとみ

茨大附属小2年  
オペラは始めて見て初めての出演。あこがれの女役です、がんばりまーす。



小河原 隆次

三の丸小3年  
お父さん（僧2）との共演です。最初で最後かな？



菊池 千波

双葉台小3年  
お父さんと共演ですが、どっちも初出演です。お父さんとどっちがうまいかきょう走です。



湯浅 真規子

みか保育園さくら組  
オペラはもちろん生まれて初めての出演です。お姉さん達に負けない演技を見て下さい。



片野 恵理子

菅谷小2年  
お父さんの目に入っても痛くない私の演技を見て、お父さん自分の歌失敗しないかしら。

茨城大学混声合唱団 団長 今井 東



# スタッフ

## 指揮



茂木 一 衛

東大美学科卒。芸大大学院修了。音楽学を服部幸三氏、角倉一朗氏、指揮法を伊藤栄一氏に師事。現在茨城大学講師。水戸コレギウム・ムジクム代表。これまでシューベルト交響曲第5番、モーツァルトミサ曲等を指揮。

## 演 出



松本 重 孝

1949、東京生まれ。1969.9、東京室内歌劇場の旗揚げ公演に参加、以後二期会、藤原歌劇団、関西歌劇団等のオペラ公演に演出助手として活動している。

## コルペティウア



下 瀬 のり吉

武蔵野音大声乐科卒、指揮を佐藤功太郎、ウグリン・カボール先生に師事。'70に二期会合唱団入団、以来中心的存在として活躍、コンサートマスターを務める。オペラ舞台出演は50回を越える。'77、'79とハンガリーに渡り、指揮者として評価を高める。

## 副 指 揮



菅 野 弘 久

昭和56年茨城大学教育学部英文科卒業。昭和57年同大学人文学専攻科修了。在学中、茨城大学混声合唱団学生指揮者。現在、常磐女子高等学校教諭。

## 副 指 揮



下河辺 伊久夫

化学工学の研究に従事する傍ら音楽活動に参加。来春1月21日(土)にフォーレ「レクイエム」(合唱 茨城大グリークラブ・茨城基督教短大、日立市民会館)の演奏をひかえている。

## 合 唱 指 揮

田 崎 雅 之

## 装 置



菊 池 弘 道

第1回「真間の手古奈」、第2回「セロ弾きのゴーシュ」、第3回「小さな煙突そうじやさん」、第6回「浮かれの兵六機織唄」、第8回「赤い陣羽織」の舞台装置を担当。

## 美術・広報



鹿志村 豊

初演以来、宣材美術面を担当。小学校校長、日曜画家。東海村在住

## 演 出 助 手



高 木 優 子

ヴィオリン、クラシックバレエ等を学ぶ。昭和46年、米、マリーグロブ大学(L.A.)修。コンピューター学及声楽専攻。昭和51年、昭和音楽短大卒、故下八川圭裕氏師事。昭和53年、伊、ローマ国立サンタチェチリア音楽院教授ボレリー女史師事(仏室内楽等)。他竹中治利氏、砂野弘武氏師事。常陸太田在住。

稽古ピアノ



天城 協子

東京都立駒場高校音楽科卒。  
武蔵野音楽大学音楽学部ピアノ科卒。  
(中島征矢子氏に師事)  
洗足学園音楽大学マックス・エッガー、マスタークラス修了。

稽古ピアノ



河崎 秋彦

水戸第三高等学校音楽科卒。  
武蔵野音楽大学音楽学部ピアノ科卒。  
ピアノを秋山千賀子、佐藤篤、市橋徹雄の諸氏に、室内楽をロバート・バート氏に師事。

稽古ピアノ



後藤 明子

県立土浦二高普通科卒。  
東京音楽大学ピアノ科卒。杉山とみえ、志村安英に師事。  
昭和57年第8回茨城県新人演奏会出演。  
昨年より稽古ピアノで参加している。

美装・着付



白川 と き

全国婚礼協会会員、茨城オペラ創立以来各公演を担当。



\* 茨城にオペラの灯を \*



「魔笛」公演を前にして 茨城オペラ研究会会長  
白川 昭平

柿も色づき秋たけなわとなりました。皆様にはますます御清栄のことと拝察申し上げます。

さて、本研究会の公演活動も今秋を迎え、芸術祭参加、連続9回の記録を印すこととなりました。

これは各県に結成されております、例えば大分、鹿児島、山形、弘前など、いくたの地方オペラの中にあつて、いささかも遜色のない存在であると秘かに自負いたしているものでございます。総合芸術であるオペラは、技術的にも経済的にも困難性が大きく、永続しないものが多いのでございますが、ファンの皆様の温かい御支援により、幸い今日に至りました。感慨一入でございます。心から感謝申し上げます。

昨年は民話に取材した「あまんじゃくとうりこひめ」「赤い陣羽織」の2本を舞台に載せ、庶民の人情を豊かに表現して、オペラの大衆化にまた一步近づけることができたものと存じております。

本年はモーツァルト作曲「魔笛」に挑みました。この作品は「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」と共に、モーツァルトの三大傑作の一つに数えられ、オペラの究極を示すものとされております。

私たちは、これまで蓄積してきた力量の総べてを結集させ、半歳余の稽古と準備に精力を傾けて参りました。

今日の舞台では、王子タミーノと王女パミーナとの恋愛、帝王ザラストロと夜の女王との闘いなど、数々の名場面が登場し、名曲を楽しんでいただけるものと信じております。

なにとぞ、ごゆっくり御鑑賞のうえ、御高評下さるようお願い申し上げます。

来年はいよいよ記念すべき第10回の公演を迎えます。目下のところ、第4回(昭和53年)公演に初演いたしました「夕鶴」を再演いたしたいものと、脚本の木下順二先生、作曲の團伊玖磨先生に懇請いたしているところです。実現のあかつきには、来秋のまた茨城オペラに絶大の御声援を賜わるようお願い申し上げます。

時節柄、皆様の御自愛を心からお祈りいたします。

## 指揮者のことば



## 茂木 一 衛

この度、茨城オペラの指揮をさせていただきました。貴重な機会を与えて下さいました研究会の方々に深く感謝いたしますと共に、本日、御来場下さいました皆様に、忌憚ない御批評をよろしく御願ひ申し上げます。

さて「魔笛」はウィーン古典派時代の天才モーツァルトの作品ですが、古典派のオペラ（音楽）は、激情のうねりのようなロマン派のそれとは根本的に性格を異にしています。音楽が言葉の持つ気分の背景となるのではなく、音楽の微細な構造そのものがドラマ化されている、言葉の持つ意味が数個の音符からせいぜい数小節の単位で音楽に置き換えられています。したがって翻訳上演に際しては細心の注意が必要です。ドラマ全体の流れに対する配慮だけでなく、言葉の1つ1つを逐語的なまでに吟味することが作業の第1歩となります。さらに旋律線に沿う抑揚をもつ日本語を見出す努力も重要です。歌唱に際しても、速すぎず一語一語の意味を適確にとらえた丁寧な表現が必要でしょう。今回の公演でも部分的に翻訳し直したり、反復練習でも上記の観点からの向上を心掛けましたが、種々の事情からまだまだ完全とはいえません。しかしその不足分は「魔笛」の音楽そのものが十分に補ってくれるでしょう。ここには最晩年のモーツァルトが到達した、たとえようもなく美しい響きの世界があります。最後のピアノ協奏曲等にも共通する、いたましい程に透明な音楽。しかもそれが、子供達にも楽しめるメルヘンの世界で存分に展開されます。たしかに「魔笛」は数年前のフィガロやドン・ジョヴァンニと比べると、ドラマとしての求心的な力は一步後退していますが、それを補って余りあるのが音楽の魔力です。この公演で、そんなすばらしいモーツァルトの世界のほんの一端でも実現でき、子供達にも大人の方々にも味わって頂けたら、そして音楽と音楽教育のためにわずかでも貢献できるなら私としては望外の幸せです。

## 演出者のことば



### 松本重孝

私が、茨城オペラの皆さんとお付合いを始めてから、今回で三度目になります。一昨年の「蝶々夫人」、昨年の「赤い陣羽織」では、親世栄夫さんの下で演出補と言うかたちでの係わりでしたが、今回は演出としてより深く亦厳しい関係になってしまいました。

今回上演されることになりました「魔笛」ですが、一つ一つ取りあげても音楽的な素晴らしさを持つアリア、重唱、コーラスなどに加えて、ジグシュピールの特色としての「台詞」の多さ、それに物語りとして多くの矛盾をはらんでいることなど、今迄に無いむずかしさを含んでいると思います。かてて加えて、これは劇場機構にもよりますが、場面の転換、装置など考えさせられる事が次から次と出てきます。それらのことを踏えて稽古に入ったわけですが、ソロ、コーラスを含めて音楽表現やテクニックに、より高度な音楽性が要求され、又歌手とりわけ地方の歌手にとっての難事であり、然も又このオペラに於ては重要な位置を占めるセリフに苦しみました。これらの難関に突き当たりながら、茨城オペラの皆さん一人一人が自己研鑽にはげている姿を見ていると、さながら劇中に於てタミーノがいくつもの試練をのりこえているさまを彷彿とさせられます。劇中では、試練に耐えたタミーノがパミーナと結ばれ、「闇の世界」を亡ぼし「太陽の世界」を栄えさせることになっていますが、茨城オペラの皆さんもこの「魔笛」での試練を克服して、更に明るく輝やく「茨城のオペラ」の世界を築かれて行こうことを確信いたします。

なにか、難しい話しばかりになってしまいました。今日上演しますオペラは、楽しいおとぎ話の世界です。私も客席の皆さんと一緒にそして舞台の上の茨城オペラの諸君と共に、メルヘンの世界を彷徨い歩こうと思います。

## ものがたり

W.A. MOZART

J.E. Schikaneder

DIE ZAUBER FLÖTE (K.V.620)

○このオペラ「魔笛」は、モーツァルトの生地ザルツブルクではマリオネット（人形劇）でも上演される程、大人はもとより子供達にも、とても親しまれている楽しいオペラなのです。次から次と出てくる登場人物と一緒にいつの間にかメルヘンの世界、へ入り込んでしまう事でしょう。

### ○登場人物

●**ザラストロ**（高僧）イシス、オシリスの両神につかえるエジプトの高僧。太陽の宮の象徴的な存在で、昼の世界の支配者であり、正義と友愛をもっとうにしています。声は最低音であるバスソ・プロフォンド。

●**タミーノ**（王子）さる国の若く美しく、そしてたくましい王子。パミーナの絵姿に魅かれ、数々の難行、苦行の末結ばれる。純真な若者を表わす澄んだ明るい声テノール・リリコで歌われる。

●**パミーナ**（夜の女王の娘）王子タミーノを心から愛しており、ザラストロの言葉を信じて母親から次第に離れ、王子とめでたく深い愛情で結ばれます。流れるような抒情的なメロディーを歌うソプラノ・リリコ。

●**夜の女王** 闇の世界の支配者でザラストロと対立する。娘をザラストロに奪われ、何とか復讐をと願いますが、最後にとどろく雷鳴の中奈落の底に落ちていきます。小字口から3点へ音までの非常に広い音域を必要とするコロラトゥーラ・ソプラノで歌われる。時には力強いドラマティック・ソプラノとしての声も要求される。

●**パパゲーノ**（鳥刺し）森の外に出たことのないという野

育ちの独身者の鳥刺し。王子と知り合ってからとんだ事件にまきこまれます。でも最後には、可愛い娘パパゲーナと結ばれます。このオペラの狂言回しの役割もにない、全曲にわたって活躍する。明るい高音域を要求されるハイバリトン。

●**パパゲーナ** (老婆・娘) 80才とも思われる老婆として登場しますが、実は可愛い娘です。ふとしたことからパパゲーナと暗れて結ばれます。歌と演技に軽やかさとコミカルな表現が求められるソプラノ・レジェロの役。

●**三人の侍女** 夜の女王に仕える侍女達。女王の命令に忠実に従い、第一幕では王子とパパゲーナの味方ですが、第二幕では敵側になります。最後は女王と一緒に奈落に落ちていきます。2人のソプラノとアルトで歌われる。

●**弁者** ザラストロに仕え、王子にザラストロの真の姿を述べて説得する。登場場面は第一幕のレチタティーヴォ(叙唱。語ることに主点がある唱法。)だけですが、ドラマの転換点を担う主要な役柄。スケールの大きいバリトン。

●**2人の僧** イシスとオシリスの神殿の僧。パミーナ、タミーノそれにパパゲーノの行手に表われ、3人を正しい道へと導く。テノールとバリトン。

●**モノスタトス** ザラストロに仕える奴隷のボス。パミーナに邪まな想いをよせる黒人。後に宮殿を追放され、夜の女王の支配下となり、最後は夜の女王と共に奈落に落ちていきます。テノーレ・ブッフォの役で性格表現が難しい。

●**3人の童子** パミーナ、タミーノ、パパゲーノ達が危機におちいった場面で必ず空中から船で姿を見せる清らかな

少年たち、ソプラノ、メゾ、アルトで歌われる。

●**2人の武士** 王子の「火と水の試練」の場で、王子に勇気を与え、若い2人をみちびく役割をはたす。テノールとバリトン。

## ○ものがたり

### 第一幕

時は古代、ところはエジプトの山の中からお話は始まります。「助けて——」と叫びながら王子タミーノが大蛇におそわれ逃げて来ます。彼が気を失い倒れると、夜の女王の3人の侍女が手に槍をかざしながら現われ、大蛇をたおしてしまいます。大蛇を退治した侍女達は、そこに倒れている美しい王子タミーノに心ひかれ、互いにけんせいし合いますが、やがて妥協し、夜の女王に報告する為3人共宮殿に帰ります。タミーノが気づき、こわごわ囲りを見廻していると、笛の音が聞こえ、いろいろな鳥の入っている大きな鳥籠を背にし、身体中に鳥の羽根をつけ手にパンの笛を持った異様ないでたちのパパゲーノがやって来ます。「俺は千人力だぞ！」と自慢するパパゲーノ。更に大蛇を殺したのはこの俺様だと嘘をつきました。そこへ先程の侍女達が現われて、嘘をいった罰にパパゲーノの口に錠をはめてしまいます。そしてタミーノには夜の女王の1人娘パミーナがザラストロにさらわれたこと、その姫をタミーノに救い出してほしいと頼み、パミーナの絵姿を渡し、夜の女王の宮殿へと案内します。闇の宮殿に入ったタミーノ達は、そこで、夜の女王の愛する娘をうばわれた母親の怒り苦し

む姿を見るのです。夢心地で夜の女王のうったえを聞いていたタミーノはパミーナを救い出す決心をいよいよ固める。パパゲーノもいましめの錠を外してもらい、決して嘘をつかないと誓う。侍女達はタミーノに魔法の笛を、パパゲーノには魔法の鈴を夫々与え、危難のある時に鳴らす様にといいそえる。こうして2人は姫を救うべくザラストロの神殿へ出発します。

一方、ザラストロの神殿の中では、奴隷の親分黒ん坊のモノスタスが姫にいたづらをしようとします。その時王子と離れてしまったパパゲーノが現われ、2人は互いの姿に驚いて逃げ出します。再びその場に戻ったパパゲーノは姫に素敵な王子が助けに来ることを告げて、2人でそこを逃げ出します。

その後森の中へ、タミーノが3人の童子に導かれて来ます。童子達が去ったあとタミーノは姫を救おうと神殿の扉をあけようとする、弁者が現われて、夜の女王こそ邪悪の化身であり、ザラストロがパミーナを連れて来たのも姫をその悪から遠ざける為である事を聞かされ説得される。弁者の誠意に満ちた語り口に全てを理解する。そして、パミーナの無事を知らされる。神殿の中では、姫とパパゲーノが逃げ出したのを知ったモノスタスと奴隷達が再び2人を縄でしばろうとします。パパゲーノは女王から貰った銀の鈴を思い出して鳴らし始めます。すると奴隷達はその美しい鈴の音にうかれて消えて行くのです。

人々を従えて姿を現わしたザラストロの前でパミーナは全てを告白する。然しその前にザラストロは全てを識って

いた。やがてモノスタスがタミーノを探し、手柄顔で現われるが、邪心を見抜かれムチ打ちの刑を受ける事になる。ついで、愛する2人になおも成練を受けねばならぬ事をザラストロは命じ、2人は承諾する。

## 第二幕

神殿の中でザラストロは神官達を集めて会議を開き、タミーノが試練に入る事を告げるのです。

一方暗闇の中で試練に入るタミーノとパパゲーノの前に僧と弁者が現われ、2人に対し新たに沈黙の試練を命じたのです。又パパゲーノにはパパゲーナと言う娘が彼の前に現われるであろうと告げ希望を持たせるのです。そして2人の僧がたいまつを持って力づけます。僧が去り、真っ暗になった中でパパゲーノの明りを置いてってくれという叫び声が聞こえます。そこに3人の侍女が現われタミーノをせめますが、彼はそれには応えません。そこへ2人の僧が現われ、顔に袋をかぶせ別な試練へ進むことを告げます。

その頃パミーナは庭で月光を浴びて眠っています。そこにモノスタスが現われ、又姫にいたづらをしようとしますが、突然夜の女王が現われ姫は難を逃れます。しかし夜の女王は姫に、ザラストロを殺すように命令して立ち去ります。母親の立ち去った後、渡された短刀を手に迷っているパミーナの前に、再びモノスタスが現われ、立ち聞きした女王との会話を材料に脅迫します。しかし姿を現わしたザラストロに追い払われ、女王に加担しようと逃げ出します。ザラストロは優しくパミーナをなぐさめます。

一方2人の僧が顔の袋をとったタミーノとパパゲーノに、さらに沈黙を守る事を告げて立ち去ります。そこへ、天から3人の童子がやって来ます。美味しい食物を置き、笛と鈴を2人に渡し天上に去ります。パパゲーノは早速食べ始め、タミーノは笛を吹き始めます。笛の音にうながされるようにパミーナが現われますが、タミーノは沈黙を守り、パパゲーノも話しかけないので絶望した姫は死を覚悟し去って行きます。

1人残ったパパゲーノは飲み物、食べ物もらい酒を飲み終ってから恋人か女房が欲しいと鈴を手に歌い踊ると、そこに老婆が現われます。自分の年を18才と2分と答える老婆にしぶしぶ未来を誓うと、突然美しい娘の姿に変わります。喜んだパパゲーノがあわてて抱こうとすると、弁者がパパゲーノを連れていってしまいます。

又、庭園では3人の童子がパミーナを見守っています。姫は狂気のように、手に持った短刀で自殺しようとし、3人の童子はそれをとめ、タミーノが姫を愛している事を告げます。

こちらではパパゲーノを求めてパパゲーノがさまよっています。失望した彼が木に首を吊って自殺する決心を固めます。未練がましく笛を吹き、三度かぞえても誰も来ません。悲嘆のどん底にいる彼の前に、3人の童子が現われ、自殺を思いとまらせ鈴を鳴らす事をすすめます。陽気に鈴を鳴らし始めるとパパゲーノが姿を現わします。パパゲーノとパパゲーノの2人が愉快的な仕草で喜び合うと、もうすでに、8人の子持ちになってしまいました。舞台は変って、

タミーノは2人の武士に導かれて来る。彼は次の試練の道の厳しさと、それに耐えられたら身を清める事が出来ることを聞いています。そこにパミーナが現われ、2人は一体となって試練の道を克服しようと誓いあいます。タミーノは笛を吹き、パミーナがその後に従って、水の試練、火の試練に耐えます。全ての修業を終えた2人は祝福をもって迎えられます。モノスタスに導かれ、夜の女王、3人の侍女達が、ザラストロに復讐する為に姿を現わします。この時雷鳴、稲妻、嵐が荒れ狂い、5人は地獄へと落ちて行きます。やがて、輝く太陽と共にザラストロが現われ、人々に夜は去り、太陽の照り輝く時が来たことを告げます。人々の歓呼の声の中、パミーナとタミーノが祝福され、イシス、オシリスの神を讃えながらこのオペラの幕はおります。



# 茨城オペラ公演記録



▲ 〈真間の手古奈〉



▲ 〈炭焼姫〉



▲ 〈小さな煙突そうじ屋さん〉

## 第1回公演

1975年10月24日(金) 日立市民会館  
 1975年10月25日(土) 水戸市民会館  
 「あまんじゃくとうりこ姫」  
 台本：若林一郎 作曲：林 光

「真間の手古奈」  
 台本：安東英男 作曲：服部 正  
 指揮：白井英雄 演出：長沼広光

### ●常北公演

1976年2月22日(日) 常北高校体育館  
 「あまんじゃくとうりこ姫」「真間の手古奈」

### ●春季公演

1976年5月3日(日) 水戸市民会館  
 「オペラ・ハイライト」

ビゼー カルメン  
 ベルディ 椿 姫  
 プッチーニ 蝶々夫人  
 モーツァルト 魔 笛

指揮：白井英男 演出：長沼広光

## 第2回公演

1976年10月31日(日) 水戸市民会館  
 狂言オペレッタ「炭焼姫」

台本：宇野信夫 作曲：清水 脩  
 「セロ弾きのゴーシュ」

原作：宮沢賢治 台本：清水 脩  
 作曲：清水 脩

指揮：白井英男 演出：河内節子

### ●春季公演

1977年5月8日(日) 水戸市民会館  
 演奏会形式によるオペラハイライト

「フィガロの結婚」  
 作曲：モーツァルト

指揮：田口邦生 構成：竹中治利

## 第3回公演

### ●高萩公演

1977年11月3日(木) 高萩市民体育館  
 「小さな煙突そうじ屋さん」

作曲：プリデン

指揮：田口邦生 演出：藤本高茂

1977年11月27日(日) 茨城県民文化センター

「小さな煙突そうじ屋さん」

台本：エリック・グロージャ

作曲：ベンジャミン・プリデン

指揮：田口邦生 演出：藤本高茂





▲ <夕鶴>



▲ <ヘンゼルとグレーテル>



▲ <浮かれのひょう六機織唄>



▲ <蝶々夫人>



▲ <赤い陣羽織>

#### 第4回公演

1978年10月29日(日) 茨城県民文化センター

「夕鶴」

原作：木下順二

作曲：團伊玖磨

指揮：汐澤安彦 演出：小田健也

#### 第5回公演

1979年10月28日(日) 茨城県民文化センター

「ヘンゼルとグレーテル」

原作：グリム

作曲：E・フンパーディング

指揮：汐澤安彦 演出：小田健也

#### 第6回公演

1980年10月26日(日) 茨城県民文化センター

「浮かれのひょう六機織唄」

台本：若林一郎

作曲：林光

演出：観世栄夫

#### 第7回公演

1981年10月17日(土) 茨城県民文化センター

「蝶々夫人」

ブッチーニ作

指揮：福森湘 演出：観世栄夫

#### 第8回公演

1982年10月24日(日) 茨城県民文化センター

「赤い陣羽織」 大栗裕作曲

「あまんじゃくとうりこ姫」 林光作曲

指揮：福森湘 演出：観世栄夫